

少林寺拳法の実態

学校教育学部学生 吉本 昭子



広島大学体育会少林寺拳法部は、発足して今年、25年目になります。現在、部員数は女子24名を含む、総勢約80名です。練習は週5日で、一日あたりの練習時間は2時間です。練習内容は鎮魂、準備体操、基本、技というようになっています。鎮魂とは、少林寺の中の禅を表したものです。少林寺拳法と聞くと単なる突いたり、蹴ったりの武道と思われがちですが、実はそうではないのです。「半ばは己れの幸せを、半ばは他人の幸せを」というのが少林寺の教えですが、これを広めるための人集めとして拳法があるのです。そしてこの拳法も自分から攻撃するのではなく、護身術として用いるための手段なのです。つまり、少林寺拳法は頭で考え、心で感じる人間、特に青少年を育成するために始められたものなのです。我が部は、そういう少林寺拳法の教えの上に立って練習以外にもいろいろな活動をしています。少林寺拳法に興味を湧いたあなた！一度、体育館1Fへ来てみては？

明るく・楽しく・美しく

女子弓道部

学校教育学部学生 牧島 玉青



弓で矢を飛ばし、的にあてる——頭の中でベクトルが解っていても、そうそう思う所に矢を飛ばせるわけではありません。芝生を横切る命知らずの猫やら煩惱やらが邪魔を致します。そんなこんなで私達は正射必中めざし修練を積み重ねていきます。若干30名の部員は、国体のおさがりという瓦屋根の道場で、週3回の合練を中心に、日々活動しております。独立24周年と、部の歴史も長くなりますが、昨今の戦績は今一つ奮いません。移転期の慌しさもさることながら、そろそろ巻き返しを図りたい私達であります。学生弓道以外の大会に参加する機会も多々あり、個々人が弓の道を広く深く、また長くしようと探究しております。

部の実相が露顕するコンパですが、手料理持寄りによるそれは、飲み会ならぬ食べ会として、上級生ほど芸達者である事を見せます。個性派ぞろい(キョーレツともいう)で、あっさりした人間関係は、「女子部だからさぞ華やかだろう」と期待される(?)方々には意外かもしれません。

こんな私達ですが、今後の発展にご期待願いたいと思います。